

【展開検討】

今回の検証から生まれた配色やパターンンググラフィックを、さまざまなツールでの使用を想定したイメージ展開と検討を行なった。使用媒体の大きさや用途に応じてフレキシブルに追従可能なパターンデザインは汎用性が高く、さまざまな用途に使用が可能である。また、Adobe Illustrator でパターンデータとして利用可能なベクターデータの作成も行った。

島内共通のお土産袋やショッパーとしての展開イメージ。
個々の店舗での利用以外にも、フェリターミナル売店
などでも汎用性をもって使用することが可能。



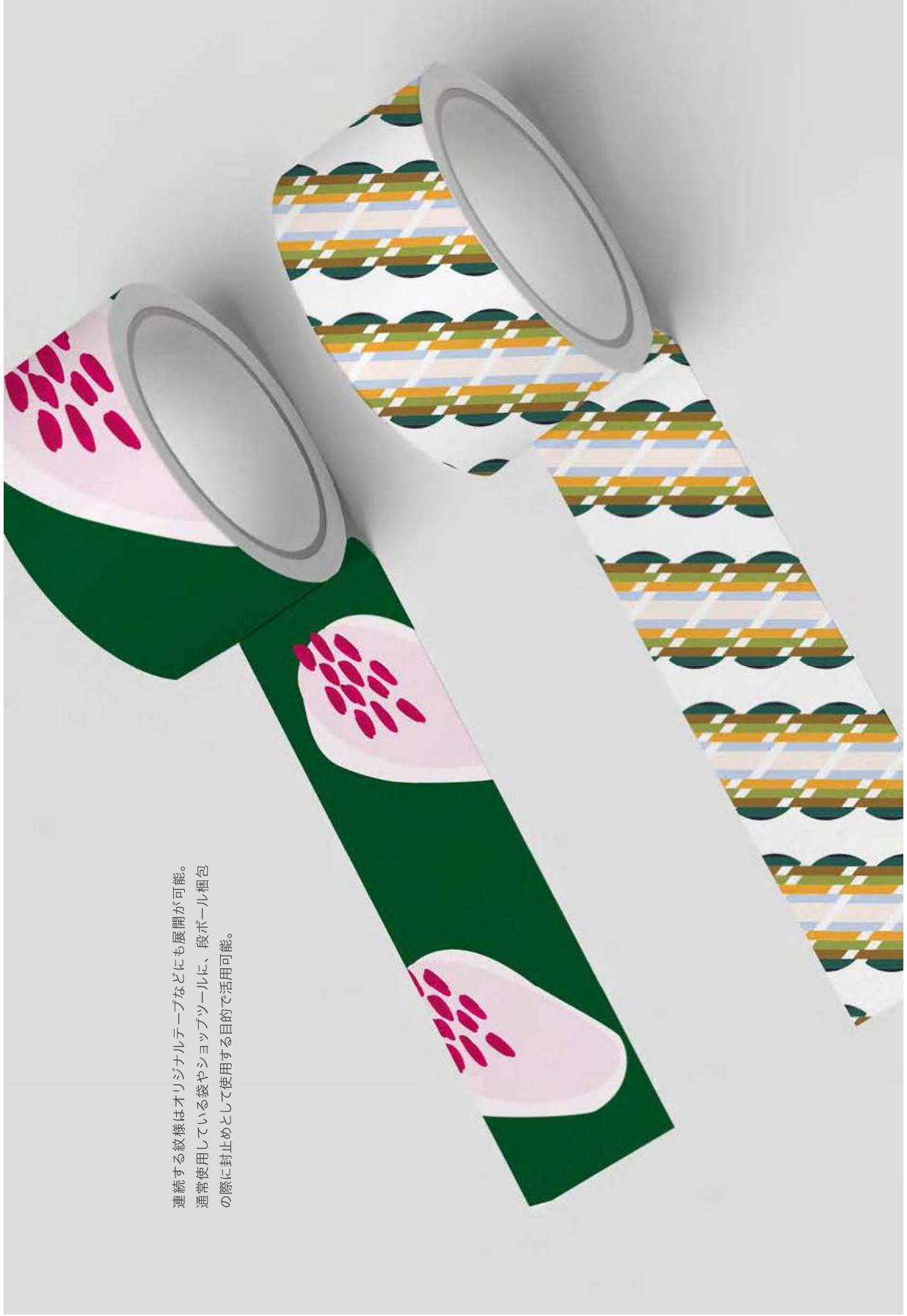
島内事業者が開発する食品や雑貨などに展開した場合のイメージ。ラベルやタグをはじめ、商品そのものとしての展開など、パッケージングラフィックは汎用性が高い。





ギフト商材やオンラインショッピングでの発送用として
展開したイメージ。箱や包装紙などに使用することで、
島を印象付けるアイテムとなる。

連続する紋様はオリジナルテープなどにも展開が可能。
通常使用している袋やシヨップツールに、段ボール梱包
の際に封止めとして使用する目的で活用可能。



レンタサイクルのボディやバスの車体、レンタカーのラッピングなど島内モビリティに個性を与え、島の景観にも映えるアイコンとしても機能する。



4) 参加学生所感

国内の島に行くという経験は初めてでした。そのため、国外に行くのとはどういった違いがあるのだろうとワクワクしていました。初日の天気は雨でしたが、それでも虹がかかったり、三日間のうちに雨の甕島も体験することができました。初めて来る場所にもかかわらず、懐かしく、穏やかな場所だと感じられました。島の特有の雰囲気だったのだと思います。島の歴史も面白いと感じました。鎌倉との関係があり、武士の血が流れているという話でかなり心惹かれました。しかし、歴史自体は得意ではなかったもので、勉強し直すのも良いなと感じました。実は遠出するのは苦手な方でしたが、土地の風土や景観を間近で体験したり、人生で初めて釣った魚を食べたりした経験を通して、液晶を通して見知ったりするよりも実際に体験することの有意義さ、説得力を理解できたので、思い切って参加してみても良かったと感じています。

え方にはとて共感できました。そこで、釣りを教えてもらった体験を通して、島の釣り経験者と交流することを目的とした釣り体験の提供を行いたいのです。特に経験者が初心者に釣りを教え、釣れた時の喜びを共有し合えるような取り組みが出来ると面白そうだと考えました。問題は、上記のような釣り体験は初心者にとって気軽に参加できるものではないことです。それを解決するための、広報活動が必要になると考えました。

島田 彩音 (デザイン学科3年)

島内でお会いした山下賢太さんの話にあった、”少子高齢化は避けられないものとして、何もできないと嘆いて何もしないよりも、それに対応した取り組みを行うことが必要になる”という考

実際に島を見てまわること、島での仕事がないので多くの若い人が島から出て行ってしまったり、それにより人が減っていくこと、以前の「日常」が少しずつなくなることなど島が抱える多くの問題を身を持って知ることができました。お話をして頂いた山下さんや先生が言っていたように、私もこれから日本のいたるところでこのような問題が今よりも多く発生すると思います。

実際、私の祖母が住んでいる場所や私が小さい頃に住んでいた場所も少しずつ街中で若い人を見ることがなくなってきました。特に祖母が住んでいる場所はそれが顕著に現れていて、私の小さい頃の思い出の風景やそのとき当たり前だったものもなくなりつつあるなと感じています。甌島で行われているさまざまな取り組みを似たような問題を抱えている場所で活用しより良い方向に進んでほしいなと思います。

船木 鈴（デザイン学科3年）

・こんな展開につながるかと面白そう

【小中学生向けの甌島の歴史についての教材】

【若い人向けのホームステイのような超長期滞在サービス】

来る人は長期休みの宿題等の題材にしてもらい、受け入れ側は貴重な人手や若い新鮮な意見をもろう学びの場のようなものにしてほしい

対象：12～25歳

時期：長期休み期間のみ（夏休み・春休み限定）

- ・約半年に1回島の人が島外の人を受け入れて生活を
- ・受け入れ側は人手がほしい人が立候補するルール
- ・過度なおもてなしはしない（あくまでも島の日常に溶け込んでもらう）
- ・来てもらう人には毎日島のちよっとしたお手伝いをして物々交換をしながら過ごしてもらう
- ・島の日常に触れてもらう

5) 考察と提言（事業を終えて）

コロナ禍でさまざまな活動に制限がかかる中、本事業を無事実施できたことに安堵するとともに「現場を見る」という活動や経験は、座学に勝る学び多いものであると改めて強く実感した。

デザインは、その言葉のイメージ以上に実際の活動は地道なものがある。一朝一夕で完成形をみるものではなく、なかには完成形という形にとらわれない手法や仕組みづくりに及ぶこともしばしばだ。常に社会情勢や世間一般と密接に関連した職能であるからこそ、本事業のような機会を通して現場を見ることは、デザインに携わる身にとって貴重なインプットとなる。

良質なインプットに恵まれた本事業では、当初目的としていた共有財産となりうるパターンデザインの開発について、短い実施期間にも関わらずひとつの価値提言のあり方として成果を得ることができた。実際にデザインを使用してもらおうという展開検証には至らなかつたものの、今回の成果物に至るまでの基礎調査やプロセスを通して、魅力発信における付加価値創造スキームの実証につながった。

鳥嶼部における価値とはなにか。ある島民に言わせれば「なにもな

い島」かもしれない。これはいわゆる利便性に富んだ都市空間的資源や資産的価値を比較にあげた自虐であると考えられるが、この「なものない」をポジティブに捉えれば対極の”そのすべて”が島にはある、とも言える。

視点や捉え方を変え、共有できざる価値創造とは何であるかを島外からの視点で取り組む今回のデザインアプローチは、従来の排他的(Exclusive)な取り組みとは真逆の包括的(Inclusive)なブランドディング展開の可能性に溢れている。仏教の三尺三寸の譬ではないが、島という小さな文化圏にみられる事物に価値を認め、島の魅力発信に関わるすべての人が自由に扱える共用価値の創造を試みるデザインとの関与は、少子高齢化・人口減の著しいこれからの時代に取り組むべきデザイン手法として、その展開の余地を強く感じている。

本事業の製作物については、そのすべてを島内の希望者に対し頒布可能な状態とし、右記QRコードから自由にダウンロードし使用できるようにオンラインストレージを開設するとともに、今回の訪問先に対し使用に関してのレビュー依頼を行った。

今回訪れた甌島以外の鳥嶼部でも同様の価値創造が可能かどうか、今後もさらなる探求活動を続けていきたい。



<https://onl.tw/RQFJAuA>

謝辞)

本事業は鹿児島県離島振興協議会 2022 年度アイランドキャンパス事業助成金により実施されました。休館日にも関わらず対応いただきました下甕郷土館様はじめ、現地調査にご協力いただきました山下賢太さん、五右衛門風呂の入り方や島の暮らしを教えてくださいました民宿のお母さん、島までのアクセスをスムーズにご案内いただいたツアー会社様など、皆様に大変お世話になりました。ここに御礼申し上げます。



ISLAND CAMPUS 2022